

## 京都府青少年育成協会会長賞

### 『『ゴミゼロ』の未来に向かって』

亀岡市立別院中学校 1年

古本 ノア

「山にゴミを捨てないで。」これが私の主張でした。

私の住む、亀岡市東別院町は簡単に言えば「山」です。その一言で表現できるほど、どこを見ても緑、緑、緑…、そう、田舎です。四季を感じ、田畑の風景に目をみはり、植物の生長を感じる。キツネ、鹿、いのしし、サルなどの野生動物と共存し、梅雨の前にはホタルが舞う。少し不便な所もあるけれど、とても美しく自然豊かな町です。

そんな自慢の町にも、問題があります。不法投棄です。一步森に入れば、タバコの吸い殻、さらには服や冷蔵庫まで。小学校で不法投棄について学習した私は、大きなショックを受けました。大学でゴミ問題を研究されている先生が話して下さった「ゴミが増え続けた場合の未来」が私の住む町でも起こってしまうのかと思うと、恐ろしくて仕方ありませんでした。

実際に川へ行きゴミを拾ってみて愕然としました。自然豊かな町だからこそ、一見すると綺麗に見える川。しかし、川辺の草むらをかき分け、水の流れの中を網でさらってみると、お菓子の袋やキャップ、ビニール袋など、プラスチックゴミが非常に多くありました。特に大雨が降った後はすさまじく、あちこちからゴミが流され、川は汚れてしまっていました。故郷が汚れていく様子を目にするのは、私にとってとても辛いことでした。

そんなとき、私はニュースで目にしたあの映像を思い出しました。ウミガメの鼻にストローが刺さっている映像です。私はそのニュースを見たとき、思わず目を背けてしまいました。目にいっぱい涙をためた痛々しい姿を見て、私も息苦しくなりました。ストローに苦しむウミガメと、不法投棄のある町に住む私を重ね、憤りもしました。「私もウミガメと同じ、ゴミに苦しむ被害者なんだ。」という気持ちだったのです。

当然、不法投棄について学習しているときの私の気持ちも、「ひどいことをする人もいるものだ。」というものでした。浜辺に雑然とうち捨てられているゴミや海上を漂っているビニール袋の写真を見ても「私は海にゴミは捨てていないし」という考えが、頭の中にはありました。

でも、そうではなかったのです。「山」に捨てたゴミは、雨水にのって「川」に流されます。流された先には「海」があり、「海」に流れついたプラスチックゴミは、完全に分解れることはなく、多くの海洋生物たちが口にしてしまいます。自分の身の回りだけを案じていた私にとって、学習を通して知った「海に直接ゴミを棄てていなくても、ゴミはまわりまわって海にたどりつく可能性がある。」という事実は、驚くべきものでした。

私は、ゴミの流出を止めることができる立場にいますが、ウミガメにはどうすることもできません。ウミガメの鼻にストローが刺さったのは、私たち人間の責任です。その「私たち」の中には、自分も含まれているということに、ようやく気づくことができました。「自分ごと」という目で見ると、もっと広い視野でもゴミ問題を考えてみたくなりました。

例えば、ゴミ処理についてです。私の住む東別院町には、ゴミ収集場があります。主にプラスチックゴミを埋め立てていますが、調べてみるとあと数年すれば、いっぱいになることがわかりました。正式な手立てでゴミを捨てていれば安心できると考えていた私にとって、それは衝動的なことでした。また、外国では、不法投棄をゼロにするために、様々な取組を行っていることがわかりました。スウェーデンでは、ゴミを輸入して積極的にエネルギーに変え、国民が出す九十九%のゴミをリサイクルに回すことに成功しているそうです。

プラスチックなどのゴミによって、海の生き物や人間が苦しむ。私は、地球の未来をそんな風にはしたくありません。「ゴミ」という言葉が存在しなくなるまで、使った物は一つ残らずリサイクルする。環境に優しい素材を使う。私たちの住む山の景観も美しいまま、生物とも共存し続ける未来にしたいです。

『『ゴミゼロ』の未来を目指す』これが今の私の主張です。私は、できる限りのことを知り、考え、そして行動することで、未来を変えていきたいです。